

令和3年度 障害児・者のスポーツライフに関する調査研究

<目的>

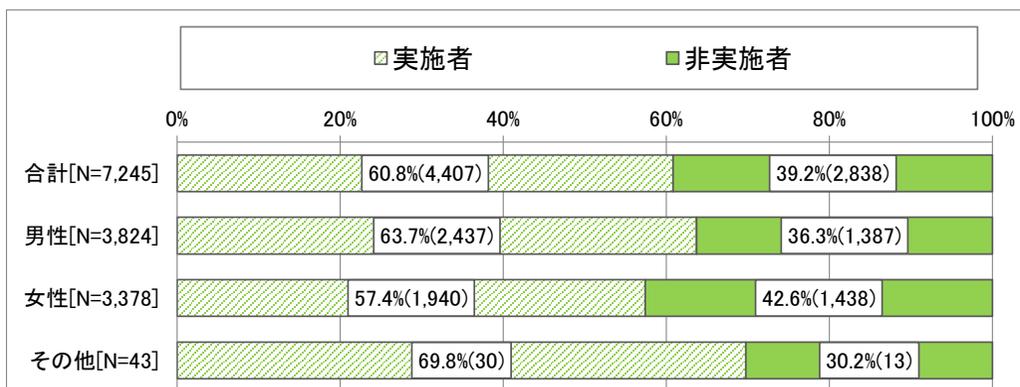
スポーツを通じた共生社会の実現に向けて、日本各地において障害者が健常者と同様にスポーツに親しめるようにするためには、各地域で抱える課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備を図ることが不可欠である。平成29年3月に策定された「第2期スポーツ基本計画」においても、障害者スポーツ振興のための体制や方策の充実を重点的に盛り込んでいる。このことから、本事業では、障害者がスポーツに参加するに当たっての阻害要因や促進要因を障害種別や程度別に把握した上で分析するなどの調査研究を実施することにより、障害者のスポーツ参加促進に資することを目的とする。

<調査概要>

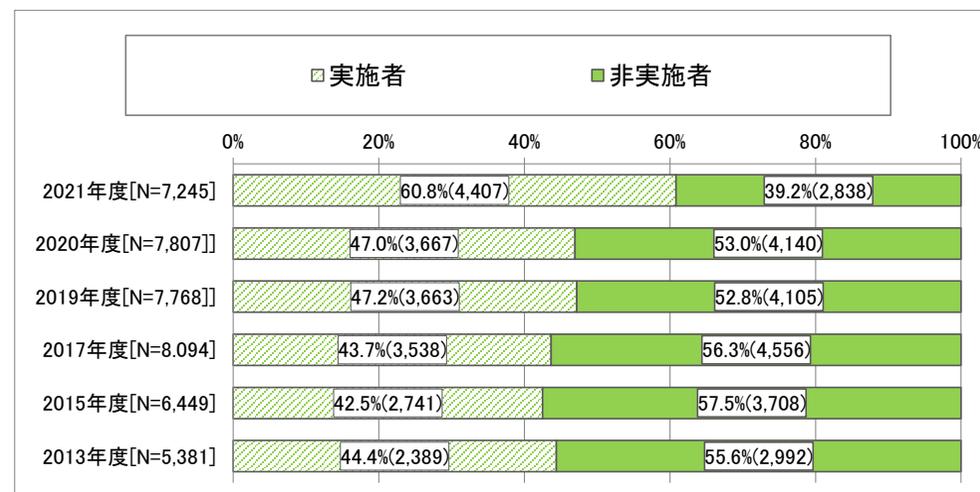
- 全国の障害者及び障害者を家族に持つ方々を対象として、障害に関する基本情報、運動・スポーツの実施状況(実施種目、頻度、目的等)、スポーツ実施における障壁、今後行いたいと思う運動・スポーツ、スポーツクラブや同好会・サークルへの加入状況、過去1年間のスポーツ観戦の実態、スポーツ観戦における障壁等を調査した。

2. 調査結果 ①運動・スポーツの実施率

- アンケートの結果、過去1年間に何らかの運動・スポーツを行った割合をみると、男性で63.7%、女性57.4%という結果となった。
- 2020年度調査と比較すると、実施者の割合は47.0%から60.8%となり、実施率が大きく増加した。



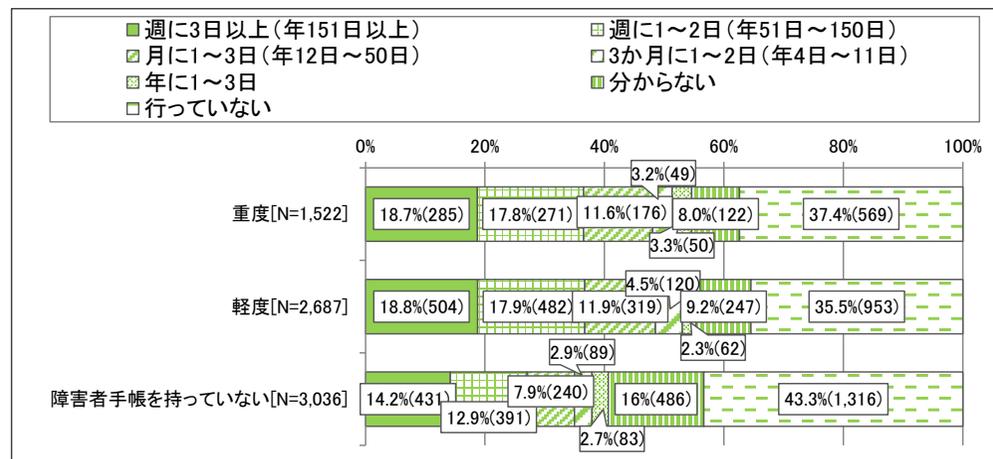
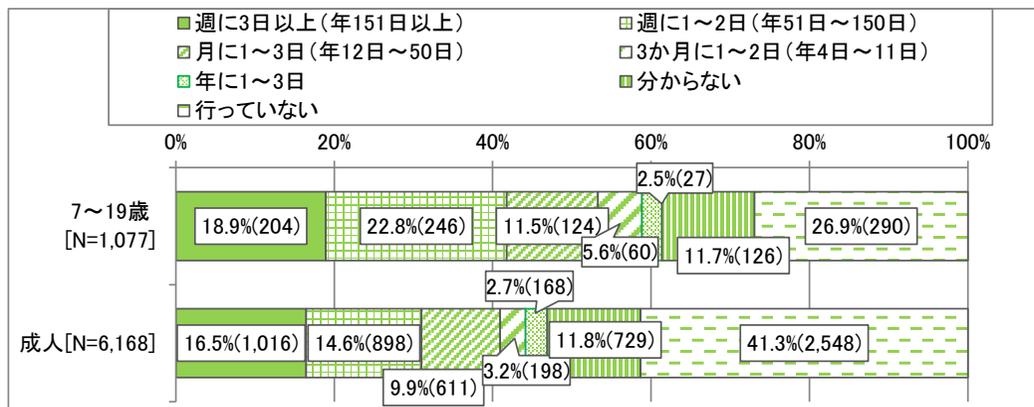
図表1 過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無
(性別)



図表2 過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無
(過去との比較)

2. 調査結果 ②運動・スポーツを行った日数

- 過去1年間に運動・スポーツを行った日数を7～19歳、成人別にみると、7～19歳では週1日以上の実施率が41.7%であり、成人の31.1%よりも高い。
- 障害の程度別では、「障害者手帳を持っていない」人の週1日以上の実施率は、「重度」「軽度」よりも低い。また、「障害者手帳を持っていない」人の運動・スポーツを「行っていない」割合が「重度」「軽度」よりも高くなっている。

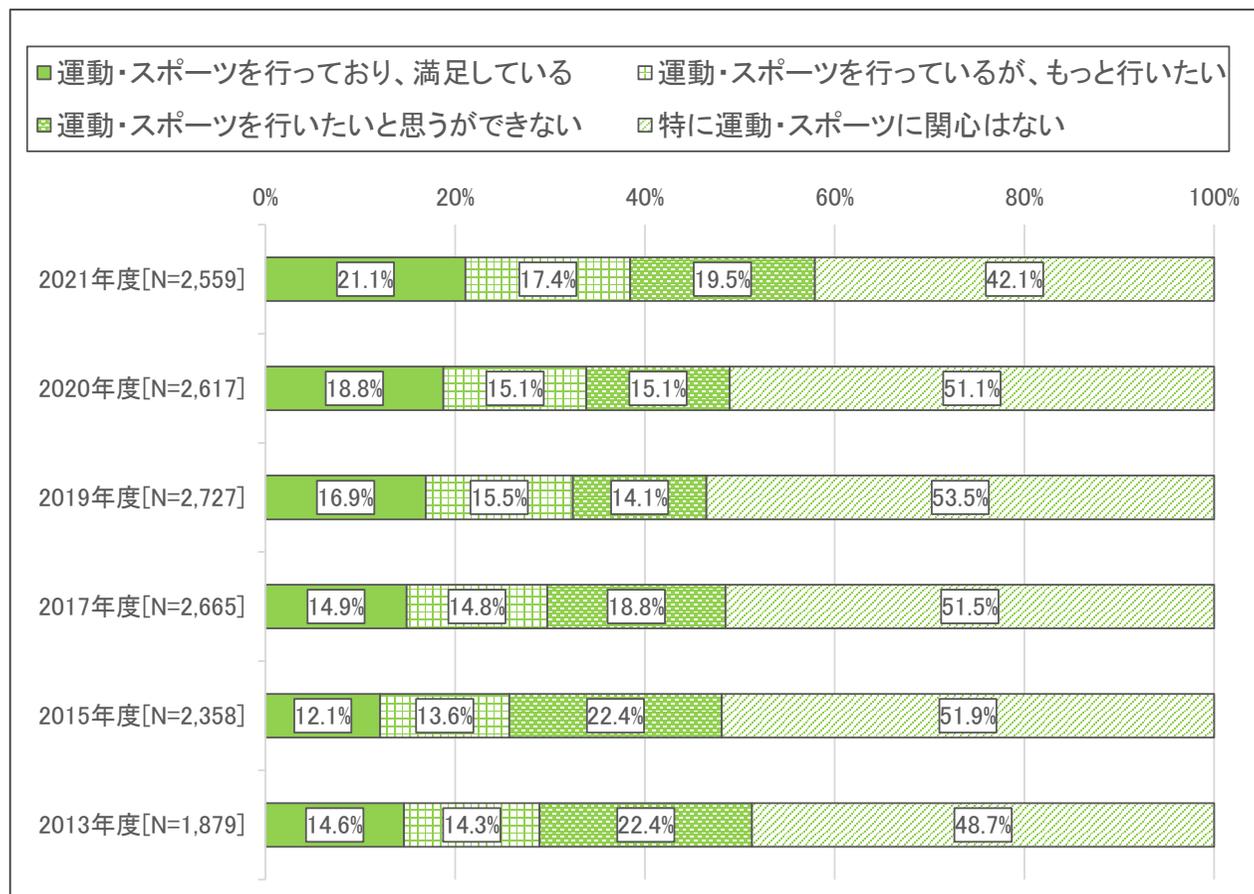


図表3 1年間に運動・スポーツを行った日数(7～19歳／成人別)

図表4 1年間に運動・スポーツを行った日数(障害程度別)

2. 調査結果 ③現在の運動・スポーツへの取組について

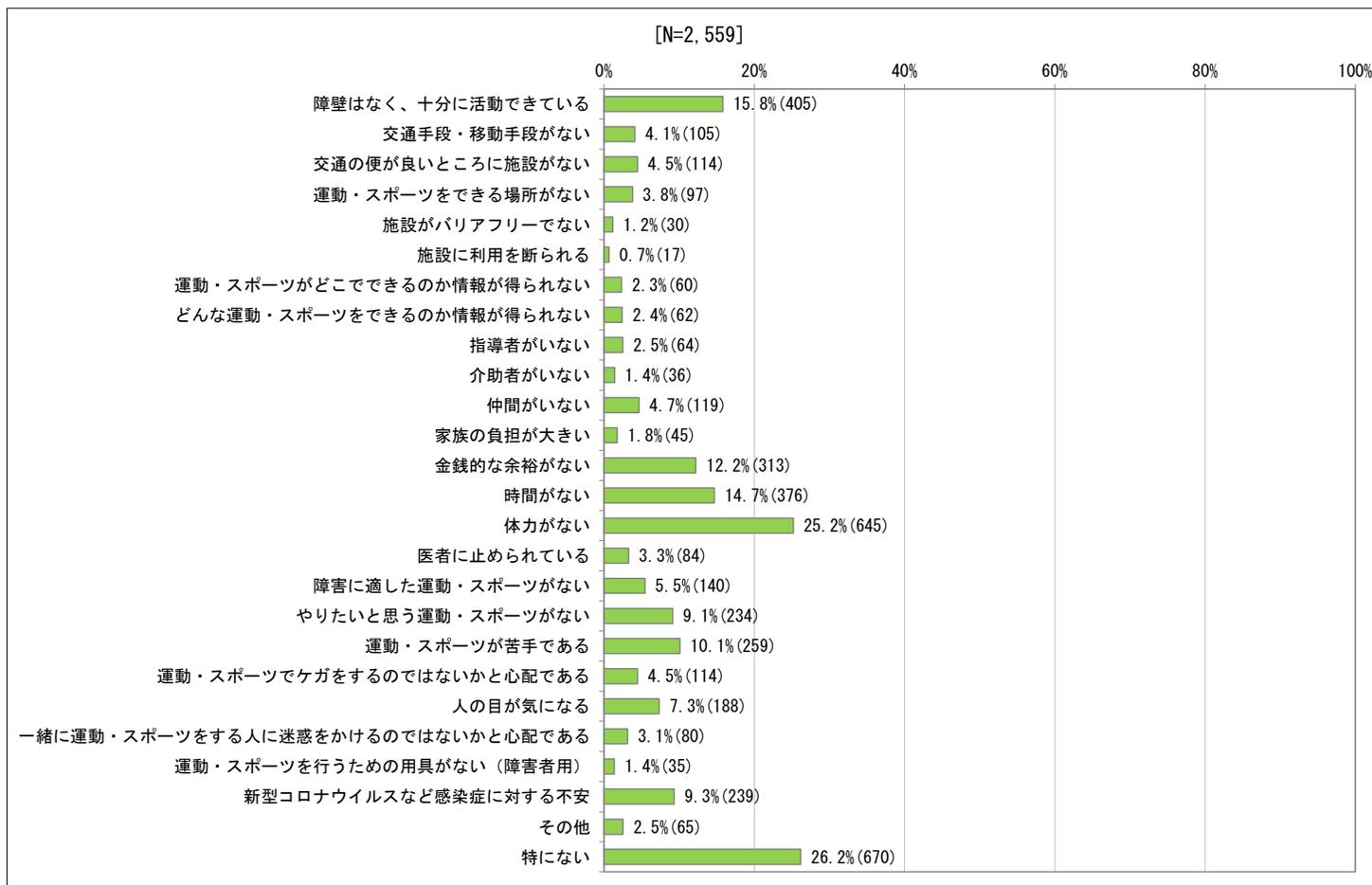
■現在の運動・スポーツへの取組については、過去調査と比較すると、2021年度調査では「運動・スポーツを行っており、満足している」「運動・スポーツを行っているが、もっと行いたい」人の割合が38.5%と増加している。



図表5 現在の運動・スポーツへの取組について

2. 調査結果 ④運動・スポーツの実施の障壁

- 運動・スポーツの実施の障壁をみると、「特にない」が26.2%と高く、次いで「体力がない」(25.2%)、「金銭的な余裕がない」(12.2%)となっている。
- 「障壁はなく、十分に活動できている」割合は15.8%である。



図表6 運動・スポーツ実施の障壁

2. 調査結果 ⑤その他

その他の主な調査結果

過去1年間に実施したスポーツ・レクリエーションの上位種目は、「ウォーキング」「散歩（ぶらぶら歩き）」

・過去1年間にスポーツ・レクリエーションを実施した人が行った種目は、「ウォーキング」「散歩（ぶらぶら歩き）」「階段昇降」の割合が高い。

スポーツ・レクリエーションを始めたきっかけは「特にない・なんとなく」

・スポーツ・レクリエーションを始めたきっかけは、「特に理由はない・なんとなく」が4割強で最も割合が高く、次いで「医師に勧められた」「家族に勧められた」の順に割合が高い。

スポーツ・レクリエーションを行う主な目的は、「健康の維持・増進のため」

・運動・スポーツを実施する主な目的については、「健康の維持・増進のため」が最も多く、次いで「気分転換・ストレス解消のため」、「体型維持・改善のため」の順に割合が高い。

運動・スポーツを実施しない理由は「特に理由はない」「わからない」「嫌いである」

・運動・スポーツの非実施者のうち、障壁が「特にない」と回答した人に、スポーツを実施しない理由を聞くと、「特に理由はない」、「わからない」の順に高く、スポーツそのものに無関心であることがうかがえる。その他の理由としては、「運動・スポーツが嫌いである」の割合が高い。